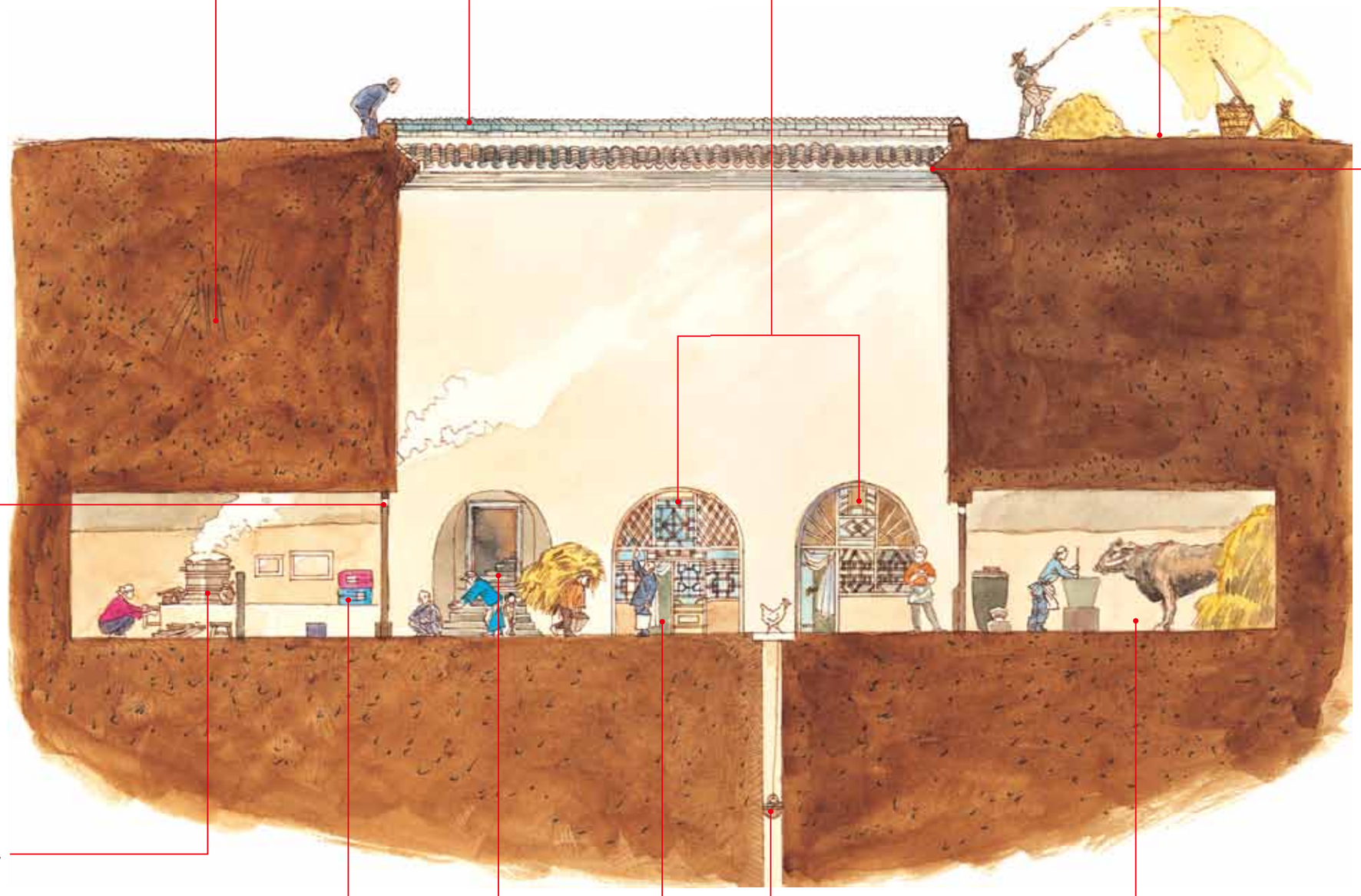
下沈式窯洞の断面

横穴上部の土
上部の土が薄ければ、構造的にもろくなるが、厚すぎると出入りが不便になる。

姫垣
雨水の流入や、人の転落を防ぐ。

換気窓
横穴の内外の湿度と温度は、差が大きいので、換気窓を設けることにより、自然と空気の循環が促される。

頂部
横穴の頂部には、植物が植えられず、麦の干し場ぐらいにしか使えない。



軒
雨水が壁に浸透するのを防ぐ。

換気窓
かつてはいずれの窓も紙が貼られていたが、換気窓を設けることで室内外の湿度と温度の差が縮まり、窓紙の保護に一役買う。

オンドルは、調理の余熱で暖をとる。煙突を通してオンドルが暖められる。これにより、冬でもそう寒くならない。

一般的に、布団やタンスなどは窓際に置かれる。湿度の高い夏場でもなるべく湿気を吸収させない工夫である。

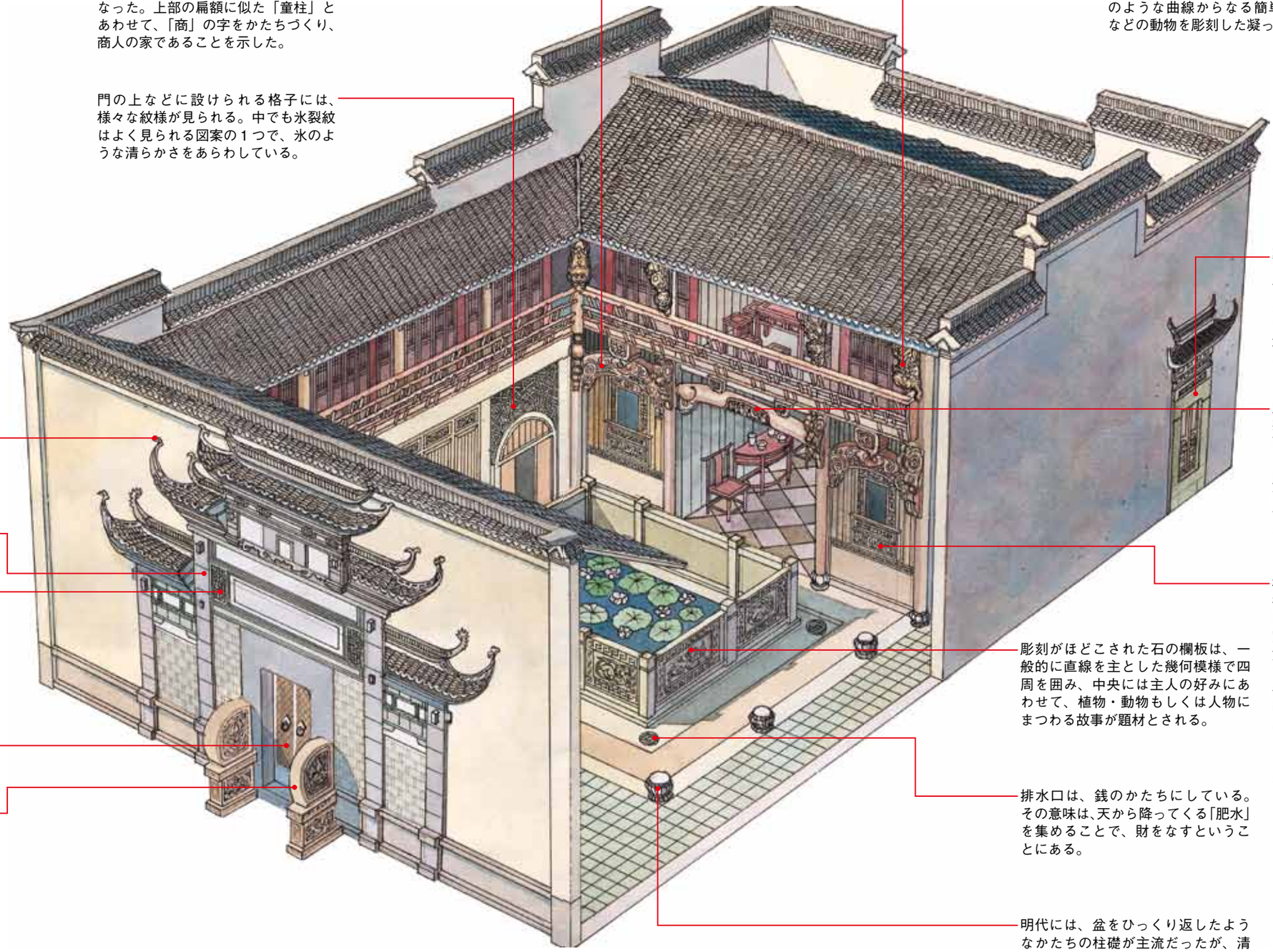
大門
地上に通じる。

門
居室の使い方によって、門扉は横穴の真ん中や脇に寄せて設けられる。

排水穴
ふだんは野菜の鮮度を保つ冷蔵庫としても利用できる。大雨のときは、ここから中庭にたまる水が排水される。

家畜小屋
窯洞の形式にかかわらず、窯洞の中に家畜小屋を設けることが可能である。

安徽省南部民居の装飾の特徴



清代には、虹梁（こうりょう）が装飾において重要となった。上部の扁額に似た「童柱」とあわせて、「商」の字をかたちづくり、商人の家であることを示した。

門の上などに設けられる格子には、様々な紋様が見られる。中でも氷裂紋はよく見られる図案の１つで、氷のような清らかさをあらわしている。

安徽省南部の民居の大棟と防火壁は直線であるが、牌楼式大門の棟や隅棟は反り上がっており躍動感がある。

牌楼（パイロウ）式大門の柱を水磨き磚の壁柱でつくるのは、富豪の家によく見られる。

門楼は、安徽省南部の民居の中で磚彫が最も美しい部分で、その模様は幾何形が主であり、補助的に自然の題材が用いられる。

木製である大門の扉の表面に水磨き磚を貼ると、美しいだけでなく防火にも役立つ。

安徽省南部民居の抱鼓石は大きく、厚さは江蘇省や浙江省の民居よりも厚みがあり、彫刻がほどこされる重要な部分である。

軒下の方杖も装飾にとって重要であり、勾玉のような曲線からなる簡単なものから、獅子などの動物を彫刻した凝ったものまである。

裏門といえども装飾を忘れない。門楼の下に磚彫があり、門がまちは4つの石材でつくられ、扉にも木彫をほどこしている。

広間（「堂屋」）の虹梁の装飾は、中央と両端に集中しており、装飾の疎密の対比が顕著である。彫刻の主な題材は、「四世同堂」「百歳和合」などである。

檻撻衣
檻撻衣は、中央の広間両側にある居室の窓下に欠かせない装飾である。居室としては窓を大きくする必要があるが、前面には廂房があるため、人の視線を考えると目隠しが必要となる。そこで檻撻衣がうまれた。

彫刻がほどこされた石の欄板は、一般的に直線を主とした幾何模様で四周を囲み、中央には主人の好みにあわせて、植物・動物もしくは人物にまつわる故事が題材とされる。

排水口は、銭のかたちにしている。その意味は、天から降ってくる「肥水」を集めることで、財をなすということにある。

明代には、盆をひっくり返したようなかたちの柱礎が主流だったが、清代になると新しい形態が次々にあらわれ、様々な彫刻がなされた。

承啓楼
（永定県古竹郷高北村）

回廊型
中庭のまわりを一周できる。

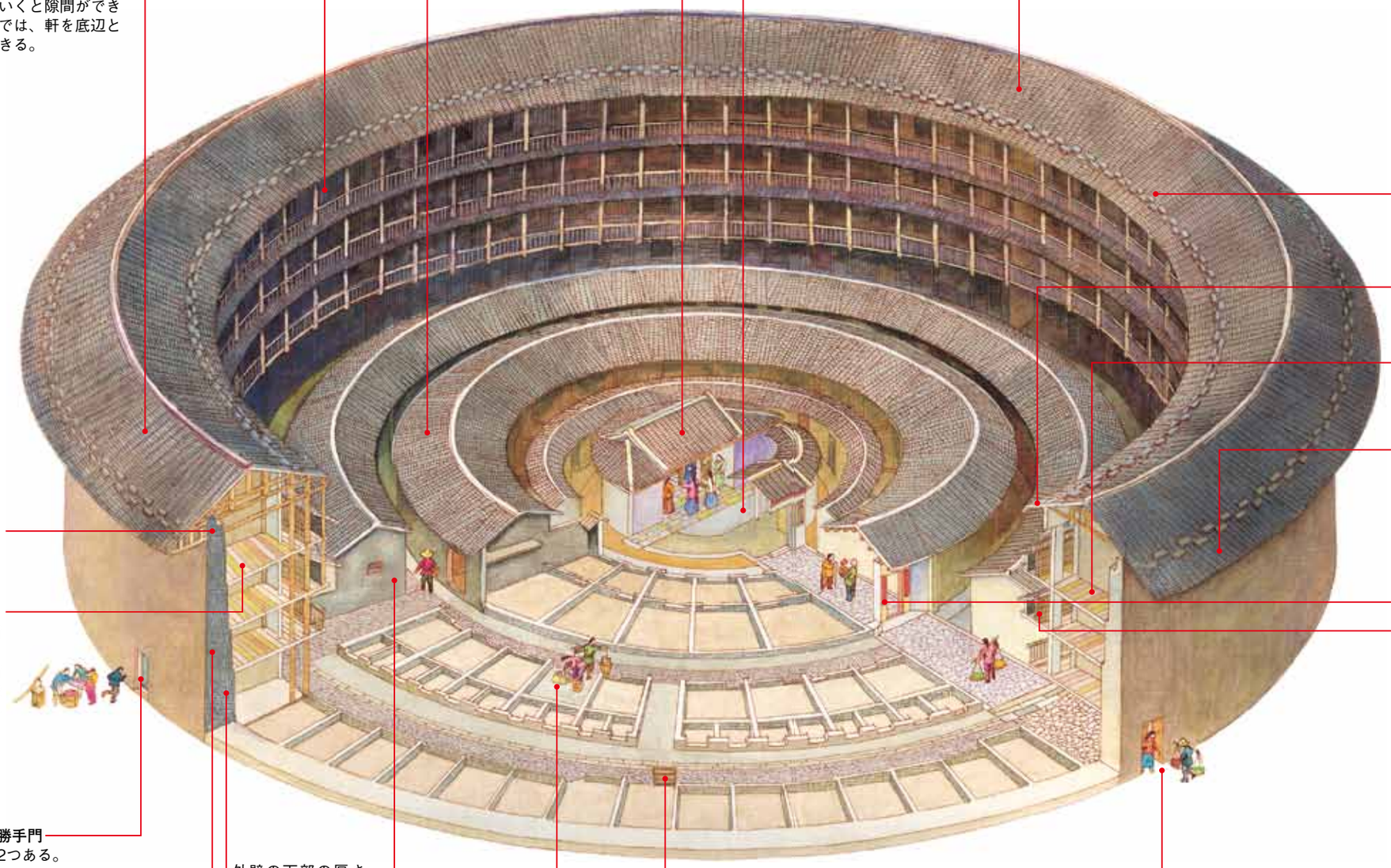
外側から3番目の建物は平屋。計32部屋あり、現在ではすべて客間として使われている。中心に面して門がつくられ、小さな中庭をもつ。

祖堂

中央にある中庭。

「剪瓦」
円形屋根の場合、大棟と軒の円周が違うので、大きさの異なる瓦を放射状に葺くのが理想的である。北京にある天壇の祈年殿では、このように処理している。しかし、葺く位置に応じて大小様々な瓦をつくるのは、非常に財力がかかることで、皇家では可能であっても、庶民ではそうはいかない。そこで、円形土楼では、数列を平行に葺き、一定間隔で生じる三角形の隙間を埋めるように瓦を葺いていく。現地では、これを「剪瓦」と呼ぶ。

外側の屋根瓦
内側と同様に、外側でも同じ大きさの瓦で葺いていくと隙間ができてしまう。外側では、軒を底辺とする三角形ができる。



瓦を押さえる磚
風で瓦が吹き飛ばされないようにする。

内側の軒の出は外側よりも短い。

居室
奥行3.6メートル。

外側の軒は壁から2～4メートルほど張り出すことで、外壁が雨に濡れるのを防止する。

外壁の上部の厚さは1メートル。

最も外側の建物は4階建て。各階に72室、全体で288室ある。1階は厨房と食堂、2階は倉庫、3、4階が寝室。

内門

通路
幅1メートル

勝手門
2つある。

外壁の下部の厚さは1.5メートル。

外壁
下部が厚く、上部にいくほど薄くなる。防御性を満足させるとともに、壁自体の重量を軽減する。

外側から2番目の建物は2階建て。各階40室ずつ、全体で80室ある。

井戸
不測の事態に備え、2つの井戸が掘られている。

階段
4箇所にある。

大門
祖堂の正面に設けられている。